

スリランカ南東部乾燥地帯で灌漑プロジェクト始まる

2002 年 1 月、3 年ぶりにスリランを訪問する機会を得た。場所はスリランカ南東部乾燥地帯のハンバントータ県で、マハウエリ開発省ワラウェ川左岸灌漑改良拡張計画における農業分野を担当した。この数年スリランカでは雨不足のためダム水量は慢性的に不足気味で、この時期 3 時間/日の計画停電が続いていた。同県では干ばつによる農産物の被害が 3 年続いている。

まず、ワラウェ川流域の開発の歴史について簡単にふれたい。コロンボからおよそ 240km 離れたスリランカ南東部乾燥地帯のハンバントータ県の中央部にワラウェ川が流れている。8 世紀末、ワラウェ川水系内の小規模な貯水地を水路でつないで貯水システム（連珠溜池灌漑システム）を形成した。その後、12 世紀までの水利事業はおもに施設の改修工事だった。13 世紀以降は人口も南西部山岳地帯へ移動していったため、貯水システムは崩壊し、この地はジャングルと化した。

1960 年代にはいり、この地域への入植促進と既存灌漑システムの改善を目的としたプロジェクトが、スリランカ政府主導で始まり、右岸全域と左岸の上流部に主水路を建設した。1970 年代にはいと ADB（アジア開発銀行）の有償資金協力が始まった。さらに 1980 年代には EU と IWMI（International Water Management Institute、当時 IMMI）が加わった。そのため、右岸側では受益面積がふえた。右岸でプロジェクトが実施されている頃、左岸の下流域ではいぜん焼畑栽培がおこなわれているにすぎなかった。1990 年にはいと、左岸上流部のおよそ 4,000ha の改修工事と一部新規水路建設の両計画（Phase I）と、さらに下流域での 8,000ha の新規開発計画（Phase II）が日本の有償資金協力として実現した。そして、2002 年 1 月から既存の中小の溜池をつなげていく従来の貯水システム工事（Phase II）が始まった。

このプロジェクトは水路をつくる土木部門のほかに、ゾウなど野生動物と入植者の競争をモニタリングする環境部門や、入植者への普及・研修などを担当する農業部門をもっている。農業部門は、スリランカ人同僚 2 人とわたしの 3 人で担当する。今回の出張では、プロジェクト内ですでに営農している 1,800 余の農家から 335 農家を無作為に選び出し、ベンチマーク調査を実施した。また、来年から始まる入植者向け研修、展示園場活動の準備を始めた。10 月からはその展示園場活動を本格的に開始する計画だ。これから水路工事が進み、入植が円滑に進むよう 3 人でがんばりたい。

滞在中の 2 月 22 日、スリランカ政府と LTTE（タミール・イーラム解放の虎）との間で、停戦協定が調印され、和平交渉が始まった。とうとう両者間の停戦が現実となり、長い内戦が終わろうとしている。青年海外協力隊員と JICA 派遣農業技術者としてスリランカに縁のあった私にはたいへん印象ぶかい出来事だった。これから東部、北部開発が進むだろうし、北部の野菜産地が復活してくるだろう。ウカウカしているところが太刀打ちできなくなってしまいそうだと 3 人で話している。また分離独立を求める LTTE がどの程度妥協するのだろうか？ まだまだ予断が許されない。（スリランカより小野）



15 人のスリランカ人調査員による調査



幹線 19km、支線 24km の水路工事